



住民主体のまちづくり

市南部の山間に位置し、清流・田村川が流れる中名田地区。人口が、5月31日現在で、1041人まで減少。高齢化率も41%と市内トップになっています。進む過疎化に危機感を募らせた地区では、早くから住民主導による先進的な地域づくりが行われています。平成27年には、各種団体をはじめ、地域住民のベテランから若手までが参加する「田村のゆめづくり協議会」を設立。中名田ブランドの確立やボランティア部隊の組織、防災対策など、さまざまな事業に取り組んでいます。事業は、平成27年度の総務省「過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業」にも採択され、活性化の取り組みがさらに加速。「自分たちのむらは自分たちで作る」をスローガンに、中名田の挑戦が続きます。

People



田村のゆめづくり協議会 代表 坂下 憲治 さん (55歳・上田)

かがやく人 田村のゆめづくり協議会の代表にインタビュー

田村のゆめづくり協議会代表の坂下さん。これまで区長や協議会前身の『田村のゆめづくり委員会』会長を歴任。現在の協議会を、「地域の調整役」と、表現します。「地域では多くの団体が活動をしています。その間をつなぐ組織ができると、より一体となったむらづくりが可能になると考えました」

「中名田では以前から、やれることは自分たちでやる」という気持ちで、むらづくりに取り組んできました」と、話す坂下さん。協議会発足により、これまで以上に幅広い活動が展開されるようになりました。

次世代のリーダーを育成

将来を見据え、若手を協議会の要職に抜てき。次世代リーダー育成の場にもしています。「みんなで発案しあえる組織でありたいですね。自分の考えが認められるとうれしいし、額に汗して実現したことには、誇りを持って胸を張れます」

行事への参加率は増加

坂下さんが大事にしているのは、「まず自分たちがむらづくりを楽しむこと」。その輪を広げて、地域全体に波及することを目指します。「地区の少子高齢化は確かに進んでいます。しかし、地域行事やボランティアへの参加率は上がっているんです」と、「住み良い長寿のむら」への手応えを感じています。「子どもたちが将来帰って来たいと思い、地区外の人に住みたいと感じるような、人と人が交流し、元気な中名田にしていきたいですね」



協議会には幅広い団体、世代が参加している

人口減少、少子高齢化、住民交流の希薄化、祭礼行事の担い手不足…。いま、地方はさまざまな課題に直面しています。

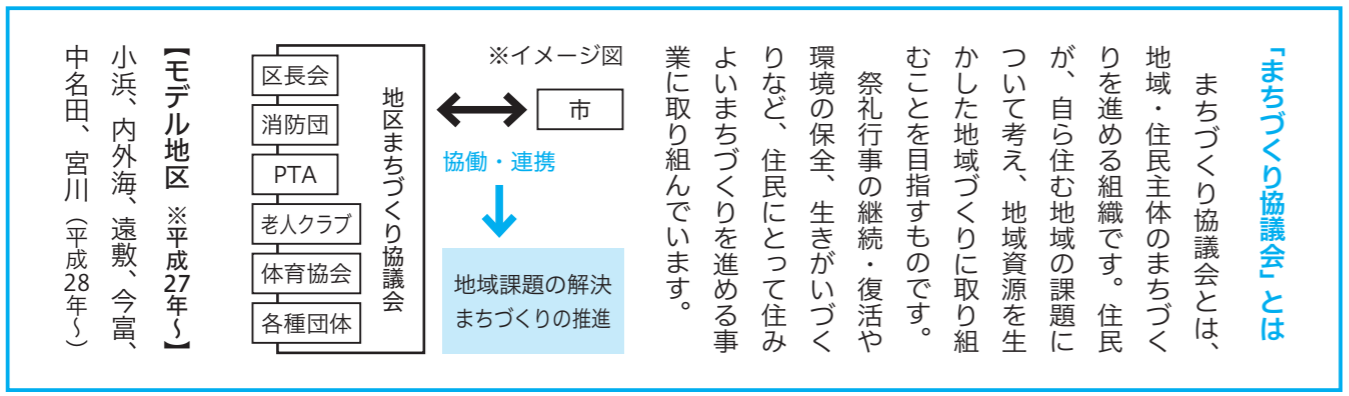
市では、これまで以上に、多くの住民がまちづくりに参画する仕組みづくりの一環として、「地域協働型まちづくり事業」を進めています。昨年度からの5地区（小浜・内外海・遠敷・今富・中名田）に加えて、本年度は宮川地区がまちづくり協議会を立ち上げ、地域課題の解決に取り組んでいます。

中でも、特に注目されているのが、中名田地区の「田村のゆめづくり協議会」の活動。その地域活性化への取り組みを取材しました。

■問い合わせ 市民協働課☎内線 372

市民協働 BOX vol.31

いま、輝く地域 心が動く場所「中名田」





生

生活環境部会
会長 片岡 直和 さん
(46歳・上田)

できることは
自分たちでやる！
中名田は「共に動く」
で、「共動」！



住民参加で地域に活力
協議会では、生活環境部会を中心に、「ボランティア部隊」を組織し、地域の清掃や行事に積極的に参加。小学校の草むしり（写真）には、150人が参加するなど活動の輪が広がっています。
昨年12月からは、地区唯一の医療機関から無料で利用できる車「なかなたスマイルカー」の運行を開始。ボランティア約20人が交代で運転し、高齢者の足として親しまれています。



中名田ブランドの確立へ
中名田では、平成25年から、地酒「田村のめぐみ」の製造に着手。休耕田で作った酒米（写真）や、地域を流れる田村川上流の滝「亀が淵」の水を使ったオール中名田産の日本酒に、市内外から人気が集まっています。
地元産食材による伝統料理「田村もの」の売り込みや、若狭和紙や茅を活用した体験ツアーの企画など、「地域に今あるもの」を磨く、ブランド開発が進んでいます。

特産品を増やして、
中名田の美味しいものを、たくさんの人に広めたい！

産

産業振興部会
会長 東 清俊 さん
(56歳・下田)



自分で守れない方々をみんなで守る！
「共助の心」が通い合う地域を目指したい

安

防災安全部会
会長 芝 和繁 さん
(45歳・和多田)



安心安全なむらづくり

平成25年の台風18号の体験をもとに、市内初となる地区単位での自主防災会を発足。地域の人で互いに助け合う「近助・共助」を合言葉に、防災体制づくりや備品の整備が進められています。
拠点施設への自家発電機やトランシーバー、除雪機の整備（写真）、集落ごとの防災マップの各戸配布、防災組織の強化など、要配慮者にも対応した、防災・避難体制が確立されています。

結集し、まとまる力こそが、「中名田魂」。むらづくりをいかに楽しむかが大事！

地

地域交流部会
会長 村上 治市 さん
(56歳・深谷)

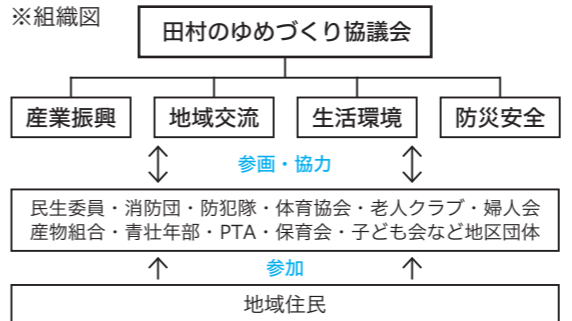


伝統文化の継承と創造
地域交流部会では、各団体と連携して、ふるさとまつりや健康ウォーク、スポーツ大会、講座など、地域住民の交流事業を企画・運営。
昨年は、伝統行事「松上げ」を次世代に継承しようと、3集落5カ所に子ども用のたいまつを新設。中名田のマークを入れた「あんどん」（写真）を、松上げ当日に道々に設置して盛り上げるなど、世代間交流の場づくりを行っています。



市民協働課
課長 四方 宏和

一人一人が意識を持って
中名田地区の田村のめぐり協議会、坂下代表の「額に汗して実現したことには誇りが持てる」という言葉は、まさにそのとおりだと思います。
まずは自ら行動してみる。そうして得た結果を通して、新たな「気付き」や「出会い」が生まれる。その積み重ねが、活力ある地域を作り上げていくのだと思います。
そのために、住民一人一人がまちづくりへの意識を持ち、何らかの形でかわっていたり、大切さを改めて感じました。



田村のめぐり協議会
田村のめぐり協議会は、平成27年3月24日に設立。地域住民による自立的なむらづくりを目的に活動しています。組織には、中名田地区で活動する団体・住民が参画。「産業振興」「生活環境」「地域交流」「防災安全」の4つの部会で各事業に取り組んでいます。